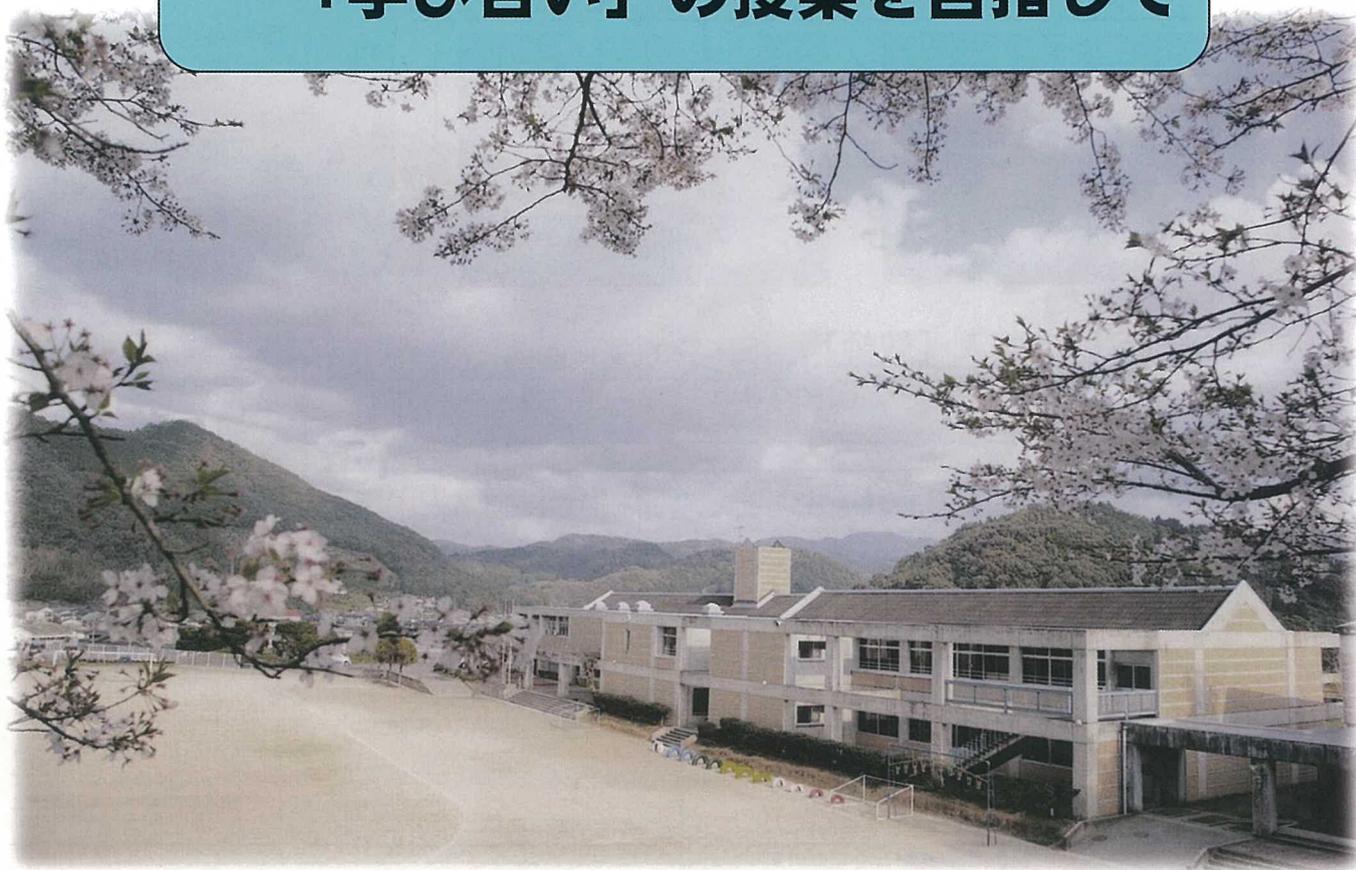


平成28年度 熊本県教育委員会指定
「生きる力」を育む研究指定校（学力充実研究推進校）

研究主題

確かな学力をつける
「学び合い」の授業を目指して



平成29年2月2日（木）



芦北町立湯浦小学校

研究の概要

1 研究主題

確かな学力をつける「学び合い」の授業を目指して

2 主題設定の理由

理由1 今日的課題から

現代を生きる子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化している。これから生きていく子どもたちは、このような変化の中で自分の夢を持って、その夢の実現のために自らの将来を切り拓いていかねばならない。そのためには、自らの課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し行動できる資質や能力を身に付けていくことが求められる。

これらの資質や能力は友だちや教師との関わりの中でこそ育まれていく。人は人との関わりの中でこそ必要な資質や能力を身に付けていく。教室の中でお互いに学び合おうとする子どもたちの関わりを高める「学び合い」の授業を通して、確かな学力をつけることができると考える。

理由2 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「鍛えよう！子どもたちの『頭』と『心』と『体』 高めよう！『チーム湯浦』のフットワーク」である。目標達成に向けた学力充実のための努力事項に①学ぶ楽しさを実感させる授業づくり、②個に応じた学習の充実、③家庭学習の習慣化、④積極的な読書活動の推進の4つを挙げている。

これらを達成するためには、指導の改善を図るPDCAサイクルに学校全体で取り組んでいく必要がある。

理由3 昨年度の取組から

昨年度は、「思考が深まる『学び合い』の授業づくり」をテーマに、「学び合い」を学習の中心に据えた授業実践に取り組んできた。様々な教科で「学び合い」を意識した授業を行うことで、本校の捉える「学び合い」の姿が明確になってきた。昨年度2月の標準学力検査では、学校全体として全国平均とほぼ同程度の学力をつけることができた。しかし、課題として学年による差が大きいこと、活用・論理的な考えを必要とする問題への対応力が不足していること、問題を読み取るための基礎・基本の徹底が十分でないこと、学習に積極的に取り組めない児童がいることが挙げられる。

そこで、「学び合いのステップ」等を活用した指導により、全ての児童が自分の考えを持ち、自分なりの方法で友だちに伝えたり、分からないことを自分から尋ねたりすることのできる姿を育てていく必要がある。学ぶことに喜びを感じ、自信を持って学習を進めることが「確かな学力」を育成すると考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

それぞれの教科・領域で「学び合い」の授業の実践を重ねれば、児童は主体的に学習するようになり、確かな学力を身に付けることができるであろう。

確かな学力の育成

【目指す児童像】

- 友だちとの関わりを通して、課題を解決しようとする姿
- 自分の考えと友だちの考えを比較・交流しながら深めていく姿
- 主体的・能動的に学習に関わる姿

② 「学び合いのステップ」等を活用した授業づくりの日常化

- 「学び合いのステップ」
- 「学び合いの達人」（教師用マニュアル）の活用
- 「ワードバンク」活用によるペア・グループ学習
- 「言葉の宝箱」の活用による語彙力・表現力の育成

は、今年度の実践の中で新たに取り組んでいるもの

① 解決への意欲を引き出す
学習課題の設定

- 導入での既習事項の徹底指導
- 課題設定の工夫

③ 「学び合い」を支える
基礎・基本の徹底指導

- 学習規律の確立
- 集団づくり
- 基礎的・基本的事項の定着

児童の実態

実践1：解決への意欲を引き出す学習課題の設定

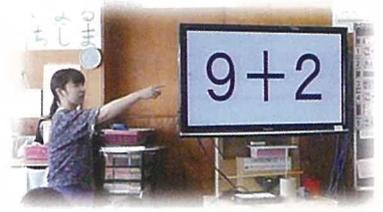
振り返る
つかむ
学び合う
まとめる

①導入での既習事項の徹底指導



徹底指導 A

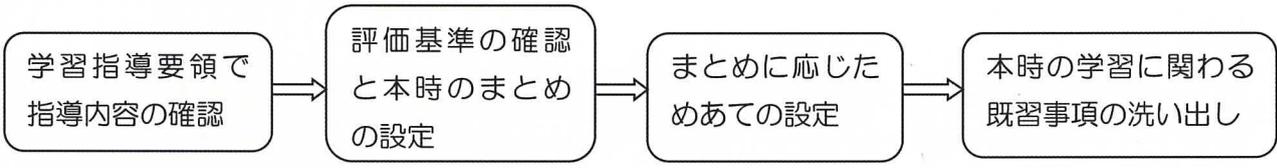
それぞれの教科において基礎・基本となる既習事項の反復練習



徹底指導 B

本時の学習に関わる既習事項の確認

②課題設定の工夫



上記①・②の具体例

6年生：社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」

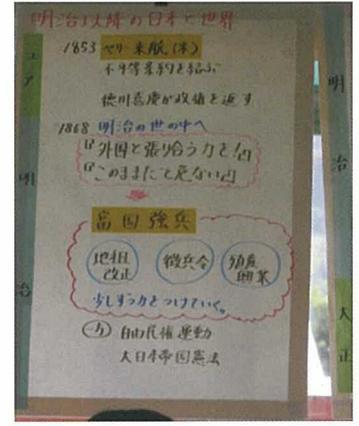
【振り返る】



徹底指導 A

明治以降の時代の流れをフラッシュカードで復習。教室には明治以降の年表を掲示。

藩を廃止し、県や府を置き、政府が任命した役人に治めさせたことは何か？



【つかむ】

戦争が広がっていった図をICT機器で提示



東南アジアを巻き込み、太平洋地域での戦争に広がっていったことを資料から読み取らせる。

めあて
なぜ戦争は広がっていったのだろう

実践3：「学び合い」を支える基礎・基本の徹底指導

①学習規律の確立

学習の構えづくり



「学習の約束」の教室掲示と毎月の反省

学習の約束	7/11	7/18	7/25	8/1
あいさつ 1分間に着席・チャイムで立席	○	○	○	○
あいさつの後は 動かない・しゃべらない	○	○	○	○
読書 短く・はっきり「はいっ」	△	○	△	△
学習の姿勢 グー・バツ・ピン	X	△	X	X
聞きかた 話している人に 体をむける	○	○	○	○
最後まで だまっておく	○	○	○	○
「分かりました」「はいと書きます」	△	○	○	○
机の端に まっすぐ手をのぞかす「はいっ」	○	○	○	○
「～と書きます、どうですか」	○	○	○	○
「～です、どうですか」	○	○	○	○
ふでばし えん筆5本はみ 音・書きみま・けしゴム・じょうぼ	○	○	○	○
じかんじ 休み時間に次の学習のじかんじ	○	○	○	○

ノート指導の共通理解



- ・授業の前に日付とめあてを書いておく。
- ・めあては青鉛筆で、まとめは赤鉛筆で定規を使って囲む。
- ・線は定規を使って引く。

②集団づくり

自己肯定感が高まる学級の雰囲気づくり



コミュニケーションタイム
コミュニケーションスキルアップの取組

縦割り班活動



児童集会での縦割り班遊戯（月1回）



縦割り班でのそうじ

③基礎的・基本的事項の定着

マイタイムの実施



毎週木曜日、放課後の15分間
複数指導体制で実施

読書活動の推進



週2回の朝読書



学年ごとに目標冊数を設定



月1回の読み聞かせ

家庭学習の習慣付け

日	学習時間	学習内容
4	15分	算数（割合）
5	15分	国語（読書）
6	15分	英語（発音）
7	15分	算数（割合）
8	15分	国語（読書）
9	15分	英語（発音）
10	15分	算数（割合）
11	15分	国語（読書）
12	15分	英語（発音）

「家庭学習の手引き」で学習内容や時間の目安を確認

生活習慣の確立

ランランカード



毎学期、期間を決めて1週間の生活の見直し

項目	目標時間	実績時間	ゲーム時間
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分
朝食	60分	60分	30分

事前に目標時間を設定

- ①しっかり朝ごはん
- ②早寝（時分）
- ③テレビは消して勉強できましたか
- ④勉強した時間はどれだけでしたか
- ⑤テレビはどれくらい見ましたか
- ⑥ゲームはどのくらい見ましたか

研究の成果と今後の課題

【成果】

(1) 児童の変容

① 「学び合いアンケート」より

質問項目	27年度1学期	28年度2学期
分からない問題があるとき、先生に分からないと言える。	82%	85%
友だちの発表を聞いて「なるほどな」と思うことがある。	89%	96%
進んで発表している。	62%	75%
分からない問題がある時「教えて」と友だちに言える。	75%	84%
ペアやグループで、友だちと一緒に考えたり、話し合ったりするのは好き。	88%	92%

- 「学び合い」の学習を日常化したことで、学習の場における児童の多様な関わりがみられるようになり、主体的に学習に取り組めるようになってきている。
- 「学び合い」の経験を重ねたことで、学習の場で一緒に考えたり、教え合ったりする姿がみられ、「学び合い」が楽しいと感じる児童が増えてきている。



② 「ランランカードの取組」より

- テレビを消して勉強する児童の割合が増加している。
- 家庭学習の時間が伸びてきている。
- テレビの視聴やゲームに費やす時間が短くなってきている。

③ 「教師のアンケート」より

- 既習事項の復習が習慣化し、基礎が身に付いてきている。
- 友だちの発表に対して多様な反応ができるようになってきている。
- 毎月「学習の約束」を振り返ったことで、学習規律が身に付いてきている。
- マイタイムの活用（複数指導体制）により基礎学力が高まってきている。
- ランランカードの取組で基本的な生活習慣に対する意識が高まってきている。

(2) 実践を通して

- ◇ 各教科において授業導入時にフラッシュカードやICTを工夫して活用したことが、既習事項の徹底や授業への意欲付けに役立った。
- ◇ 「学び合いのステップ」は第7弾まで改訂され、各教科で活用できるようになった。
- ◇ 学年に応じた「ワードバンク」を作成したことで、児童が安心して学び合いを進めたり深めたりすることができるようになった。
- ◇ 「学習の約束」を定期的に振り返り、改善するためのめあてを設定したことで、学習規律を守ろうとする意識が高まってきた。

【課題と今後の取組】

- ◆ 「学び合いのステップ」のより効果的な活用方法を検討する。
- ◆ 「言葉の宝箱」の内容をさらに充実させ、活用を広げる。
- ◆ コミュニケーションタイムの内容を精選し、「ワードバンク」を積極的に活用する。
- ◆ 諸学力調査等の結果を踏まえて、更なる指導の改善を図る。